

立山町立雄山中学校 一年

林 風都

命の大切さを考える

北日本新聞 8月3日付「仲の良い友人へなせ

の記事を読んで

ぼくは、この記事を読んでます。なぜ?」

と思いました。それは同級生を殺害したからです。しかも友達なのに。7月29日に初めてこの事件を知ったから、これまでの記事を読んだときまでじうしてこんな事ができる

のか理解できません。加害者の女子生徒は、「猫を解剖したり、医学に関する本を読んだりして、うちに入間で試したいと思うようになつた」とか、「中学生のところから人をねえしたい欲求があつた」と、言つていまつが命の大切さがわからなかつたのでしょ?うか。中3だつた昨年に実母を亡くした後、父親を金属バットでなぐり、父親は女子生徒を精神科に通院させましたが、他に方法はなかつた

のかぼくは考えました。

この女子生徒は小学生の時にも給食に洗剤を混ぜたことがありますか、両親はどうな対応をしたのか。本人と向き合って話をしたのか気になりました。この家族にはそういうコニユニケーションをとつこいなかつたのではないかと思いまして。

ぼくの家では、両親と妹と学校や友達の事など普段から話をしたり、家族同様のペートを通して命の大切さを話すこともあります。

「死」とは、とても悲しいことです。もし、家族や身近な人が亡くなつたら、ぼくは生きる気力をなくしてしまうかもしれないと思うます。ましてや、両親や友達を殺さうと思ひこゝ自体、ぼくにとっては思いもよらない妄想です。

今後女子生徒は、精神鑑定をされるうですがこれからは命の大切さについて考え、じれだけ重大な罪を犯したことを自覚して反省してほしいです。そして命を大切にしてほしい



# 「仲の良い友人」なぜ

## 長崎・同級生殺害1週間

## 女子生徒の心 解明なるか

佐世保市の高校1年の女子生徒(16)は供述した。対象になったのは「仲の良い友人」の同級生だった。殺人容疑で女子生徒が逮捕されてから、3日で1週間。女子生徒の心に何が起きたのか。県警の捜査が続く中、ある捜査員は「彼女自身が抱えた問題だろうか。普通の人には理解できない」と漏らした。

本記  
31  
面

捜査員たちは「頭がいい」と  
言っていた。

ヨンで、警察官が松尾愛和さん(15)の遺体を見つけたのは、7月27日午前3時20分ごろ。遺体は激しく傷つけられていた。

部屋には、人体図が掲載された医学に関する本もあつた。遺体のそばに落ちていたハンマー やのこぎりなど複数の工具は、女子生徒が約1ヶ月前から順次、買ってきたことが確認されている。

取り調べで「中学生の」という

捜査関係者による、部屋にあつた本棚には小説のほか、画集や詩集、漫画が並んでいた。「ものを考えるのが好きな子だと思った」と別の検査員。取り調べでは事件のいきさつを理路整然と語る。

同級生殺害事件が起きたマンショ  
ン＝7月30日、長崎県佐世保市

## 逮捕生徒の父の書面要旨

娘が起こした事件で、何の落ち度もない人が被害者となつたことにおわびの言葉さえ見つかりません。人生の喜びや幸せを経験する時間を奪われ、帰らぬ人となつた被害者の苦しみと無念さ、ご両親の衝撃と悲しみの深さを考えると胸が張り裂けます。思いでいっぱいです。本当に申し訳ありません。

ご遺族に直接謝罪ができるない段階で、社会に心情を申し上げることに逡巡していました。しかし、社会的反響の大差ない事件であることを重く受け止め、1週間が経過する現時点で、加害者の父親として、せめて道義的な責任を直視した対応を

せていた／＼決意です。  
今は生きる自信さえ喪失しかけていますが、私の命でおわびとしても償うことのできることはなく、特にご遺族のご心情に十二分に配慮しつつ、適切な時期・方法で謝罪や補償など力の及ぶ限り誠意ある対応をしていきます。

複数の病院の助言に従いながら、夫婦で力を合わせ娘のために最大限のことをしてきましたが、私の力が及ばず、事件が発生したことは誠に残念となりません。

どんな理由・原因があるにせよ娘の行為は決して許されるべきものではありません。事件は本当に申し訳ございませんでした。重ねておわび申し上げます。

た」と供述した女子生徒。小学校6年で同級生の給食に洗剤などを混ぜ、今年3月には金屬バットで父親を殴り、1人暮らしを始めた。その後入学した高校には3日しか通っていない。父親によると、精神科に通院させていたという。

なぜ、中学からの同級生だったのか。取り調べでは「一緒にいて、我慢できなくなつた」と供述したが、明確な理由は明らかになつてない。

ある捜査員は「本当のことを知るには時間がかかる。眞実なんて分からぬかもしけない」と困惑を隠さない。長崎地検は女子生徒を精神鑑定する方針だ。